
ゼロ魔でシュビィラ！

沈没船長

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ゼロ魔でシュビィラ！

【Nコード】

N5649Z

【作者名】

沈没船長

【あらすじ】

情けない理由で死んだことでハルキゲニアに転生！そこでおこなう文明創造。勢いと思いつきの物語！どうなるかは作者も知らない！！

転生！

「どこだどこ？」

私が目を覚ますとそこは何も無い広い平原だった。

「本当にここどこ？？」

確か昨日はC i 4を下手糞ながらプレーして制覇勝利が達成できて…。寝たのかな？

でもそれならなおさら「ここ」だよ。

『お主は死んでココはハルケギニアじゃ馬鹿もん』

「だれ！？」

『おぬしに姿は見えんよ。まあ、神と思ってくればええ』

「神？」

『そう神！で、話を戻すとお主は不眠不休でゲームをやりすぎて死んだんじゃよ』

「うわゝ。情けない死因だなあ」

特大の親不孝者だな私。

『で、そんなダメ人間は神のおもちゃとして使って良いってことで

ワシがもろうつたんじゃ」

「何か言いたいけれど反論がしにくい…」

すでにやらかした事考えると当然ともいえる結果ですものね。

『どうしようかと考えていると直前までお主がしていたゲームと読んでいたネット小説から面白いアイディアが閃いての』

ほうほう。

『お主にゼロの使い魔の世界で文明を一つ創ってもらう事にしたのじゃ』

「むりむりむりむり」

無理だから！私にそんな力ないよ！チューリップ仮面や世界の凄腕プレイヤーみたいに頭も腕もよくないもの。

『安心せい、特典はいくつかつけるからそんなに難しくはないぞい』

「え？いいの??」

罰でやらされると思ってたから特典なんてもらえないと思ってたけれど。

『別に小難しい事をさせる気は無いからの。暇つぶしにお主の文明発展を見たいわけじゃからな。それと罰は何千年も生きることになるわけじゃからそれで十分じゃよ。それにおぬし自身への強化は不老不死ぐらいじゃからの』

いいんだ…。じゃあ、さっそく特典の内容を聞きたいな。それとさつきから感じるこの違和感も。

『特典は技術開発の難易度の低下、建築物の建造速度アップじゃ。今後時代が進むと変わるかもしれないがそんなところか。それとサポート役の指導者を提供。それとお主が住む宮殿内部のみじゃが、お主が暮らしていた時代の最先端技術が使いたい放題と、メイドガーゴイルをいくらでも創造できることじゃ』

技術開発の特典は嬉しいな。それに千年以上あるとは言ってもかなり自堕落な生活も送れそうだ！まあ、そうなったら攻め滅ぼされそうだけど。

「魔法とかは？」

『ない、あくまでもお主の文明対ハルキゲニア文明が見たいからのお主の無双など見てもしょうがないわい』

そうですか…。使いたかったな、魔法。

『労働力も畑から取るかのごとく生産できるぞ。ついでにむさくるしい男を見てもしょうがないから性別も女にしたぞい』

それかさつきから感じる違和感は！それに労働力を畑からって…、それでいいのか神？

『さらばじゃ、最初の開拓者とサポート役は後ろにいるぞい！』

その言葉を最後に神はいなくなっただけ。

性転換した事や服のことはとりあえず最初の都市を造ってからにしよう。そう思い振り向くと。

「フンガー！」

見るからに原始人ぽい姿をしたおっさんと。

「同志ナスターシャよ、共にすばらしき文明を造ろうではないか！」

体格が良いグルジアの熊さん。……スターリンがいました。

確かに最後のときにヒトラー、ムッソリーニとか独裁者ばかり集めて自分はスターリンでプレイしてたけどさ…。

いろいろ思うところはあるが、全て後回しにして近くにあった大河の横に都市を建築することにした。ゲームだと川の近くに立てるといいからね。

都市建造を宣言した瞬間に宮殿がよきよきと生えてきてポツリポツリと人が出た事には驚いたが、とにかくまずは近くを探查だ！とスターリンに斥候の量産と労働者の生産を命令して自室にきていた。部屋の壁に大きな黒い絵？が額縁に飾ってあった。

何かと思い近くで見るとどうやら地図のようで探査した場所が明るくなっているらしい。現在は都市周辺しかわからないがこれはなかなか便利そうだ。

それよりも当初の目的の姿を鏡で確認すると。

そこには美少女がいた！

女っただけでもアレなのに少女かい！

見た目はネギまのエヴァだろうか？ 姬カットに腰どころか、ひざ裏くらいまである長くてきれいな金髪。 つり目の赤い瞳といった容姿だ。

着ている服も白いレースが所々にあしらわれたゴスロリ風の黒いドレスで、手には手首までの白い手袋、足は三つ折の白い靴下と黒い靴、頭にも黒いつばが広い帽子をかぶっていた。

なんていうかお嬢様といった感じの服装だった。

とにかく何かいろいろ疲れたのでその日はさっさと寝る事にした。

転生！（後書き）

未完の話があるってのに始めちゃいましたw

この話は作者の趣味と思いつきと妄想で構成されるので真面目な話を期待してはいけません。

また更新も超不定期になると思うので注意です！

気晴らしにチラッと見てくすつと笑う感じにしていこうと思います！

現状確認と勢力拡大！

あれからしばらくたつて。

斥候も順次生産されていて、今は都市周辺の第二都市建設予定地を探しているところだ。

技術研究も本当に最初なため農業とかを研究させている。

ただこの前どこかの集落から青銅器の技術を貰ったらしい。どうやって貰ったかは知らない。

スターリンいわく。

「我々の斥候が到着したら快く技術者を提供してくれた」

らしい。なんとなくさらって来たように感じるのは気のせいなのかな？

（そもそも技術を提供じゃなくて、技術者を提供って……）

それで現在私が何をしてるかというと。

メイドを創っている！

いやだって、最初過ぎて逆にやる事が無いんだよね。ゲームみた

いにターンを進めれるわけじゃないから。

だから暇つぶしと人気が全く無いこの宮殿を賑わせるために造っているのだ！

誤算はガーゴイルだから全員無表情ってことかな…。文明が進んだら人間の子を雇うぞ！

服装はミニスカニーソ！では無くメイド イのふぶ さんが着ているようなロングスカートの普通の奴にした。もちろん白手袋着用で足元も白いフリルソックスといった趣味全開の物にした！

そんな感じでメイド創造やたまに来る報告を読んだりしている。

ちなみに社会制度を農奴制にしてビシバシ働かせている。

そんなこんなで200年くらいたつて。

都市も発展してきたし都市自体の数が増えて文明圏も順調に拡大している。

ただ問題は無いわけではなく、各地に派遣している斥候から得られる情報は、あまり嬉しくない物がほとんどだ。

まずと言うか全部といってもいい、自分の文明の位置なんだけど。

地球のロシアの位置にあり自然が結構厳しいこと、これだけなら何とかなるんだけどそれより問題なのは……。

文明がほぼ封鎖されているとこだ。

東は言うまでも無く広大な荒野が広がっていて、シベリア近辺は尋常じゃない吹雪が吹き荒れていて進むことが不可能らしい。

さらに死海から東は巨大な山脈が広がっていて越える事は困難であり、例え越えることができてその地域を支配し続ける事は困難だろう。

ならば南はというと、中東はエルフの勢力圏なため進出は困難を極めるだろう。

なので必然的に文明を拡大させるには西、ハルケギニアへと進撃するしかない。

いずれエルフ圏も飲み込みたいが、今はまず農地の確保のために東欧へと進行するために戦力を整えている。

それからまた数世紀が過ぎて……。

無事に東欧辺りを獲得してさらに文明圏を広げることが出来た！
広大な農地を獲得したことで各都市の人口も順調に伸びていつて
いる。

何よりの朗報は、ついに火薬の開発と実用化に成功したことだ！

これではマスケット銃、大砲の開発と量産化、戦力化が完了すればハルケギニアへと侵攻を開始する。

魔法の存在が少しばかり気になるが原作であれだけ大戦期の兵器に手も足も出なかったのだ。

まだ原作よりも遙か昔、向こうの兵はせいぜい騎兵がと槍兵くらいだろう。後は弓兵。

高ランクメイジに多少てこずるだろうが数と基礎技術力の差で押しつぶせばいい！

ハルケギニアを獲得すれば海への玄関も獲得できる、あとは南北アメリカも飲み込んでゆつくりと文明を育てていけばいい。

いくらエルフでも現代兵器を投入すればひとたまりもないだろう。

最初はどうなるかと思ったけれどこれなら簡単に世界制服も達成できそうだ！

フフフ、ハルケギニア解放の日が待ち遠しい。

現状確認と勢力拡大！（後書き）

まだまだ最初なんで年がガンガン進んでいきます。

とりあえず今回はここまで、次回は気が向いたときに投稿します！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5649z/>

ゼロ魔でシュビィラ！

2011年12月18日23時47分発行